新見市男女共同参画情報紙

りぼん

vol.21
2016.2

参画宣言

「男女共同参画川柳　作品紹介」

10月15日から11月30日の期間で男女共同参画川柳を募集したところ、470点の作品を応募いただきました。多数のご応募ありがとうございました。

今回のりぼんでは、応募していただいた作品のうち、りぼん編集委員が選出した作品を紹介します。

大賞

おむつかえ
初めモタモタ
今はプロ

— 山岡　猪久子 —

【講評】
四苦八苦しながら子育てをしている姿が目に浮かびます

別冊

品を紹介します！

優秀賞

中

手伝うよ
その一言が
呼ぶ笑顔

— 藤井　陽大 —

優秀賞

中

参画で
まあるい家庭
築きたい

— 武田　真歩 —

優秀賞

中

影でする
「オヤ」のいぬまに
お手伝い

— 松田　瑞生 —

入選作品

おいしいよ
弟じまんの
チャーハンの味
中
— 樫本　真衣 —

お父さん
何もしないで
怒られた
中
— 小川　祐葵 —

なりたいな
父親のような
イクメンに
中
— 加嶋　悠也 —

ついにきた
男子についに
更衣室
中
— 池永　達哉 —

忙しい
母に代わって
僕が家事
中
— 石倉　聖海 —

欲しいのは
イケメンじゃなく
イクメンね
中
— 渡邉　純菜 —

台所
たまには父が
立っている
中
— 奈尾　麗菜 —

代わろうか
親に言ったら
どうぞどうぞ
中
— 田辺　虎太郎 —

女子だけど
ちから仕事も
してみたい
中
— 江藤　春香 —

中 は中学生の作品です。　〇はペンネームです。　敬称略

別冊

優秀賞と入選作

優秀賞

古稀向かえ
隠れた自分
再稼働
— 太田　美知子 —

優秀賞

育メンを
育てる社会に
衣替え
— 定岡　豊秋 —

優秀賞

炒め物
妻に褒められ
レギュラーに
— 石倉　衛 —

入選作品

なんでオレ
手伝いしたら
そうかいかん
— 河野　隼平 —
中

爺ちゃんは
後(おく)れて食べて
お片付け
— ペ 静心 —

自分らしく
生きて恥ない
父と母
— ペ 藤井　峯香 —

10年後
家事も育児も
二人三脚
— 中川　美月 —
中

家事育児
分担したら
笑顔ふえ
— 山岡　猪久子 —

八十路でも
朝一番に
化粧する
— 赤木　三四子 —

自信もて！
君がしたこと
「むだ」じゃない
— 松田　瑞生 —
中

ままごとも
エプロン姿の
パパ人気
— 定岡　豊秋 —

じじばばが
一役担う
孫育て
— 村下　淑恵 —

その他の応募作品を紹介

作者名（ペンネーム）は省略させていただきます。

■父と母
仲良く畑で
仕事する

■母よりも
意外とこってる
父の飯

■お弁当
役割分担
父と母

■パパなんで
そうじしないの
ママきれた

■お父さん
お母さんの事
手伝って

■三世代
家族みんなで
支え合い

■我がクラス
男女みんなで
和気藹々

■おそろいの
エプロン似合う
かくし味

■介護には
男女共助が
かかせない

■父ごはん
母はおかずで
出来あがり

■家事、育児
すべて協力
いい笑顔

■皿洗い
母が洗って
父がふく

■やりたいな
男女を明るく
する仕事

■家事だって
１つの仕事
平等に

■いい家庭
助け合うのが
家族だよ

■これからは
稼ぎも家事も
分けあって

■台所
未来はいつも
にぎやかだ

■家事・育児
お母さんだけの
仕事じゃない

■笑顔の輪
協力すれば
広がるさ

■家族とは
かけがえのない
宝物

■誰にでも
自分の役目が
あるはずだ

■助け合い
男女のかべを
ぶっこわせ

■男女とも
手をとりあって
助けあおう

■おおそうじ
みんなでやれば
すぐおわる

■お手伝い
やればいかせる
将来に

■おつかれさま
その一言で
パワー回復

■お母さん
たまには私を
頼ってね

■見つけよう
自分にできる
only one

■ぼくの夢
とうさんみたいに
なることだ

■寒い日は
こたつの取り合い
みんなでね

■ともだちと
おこりおこられ
それもいい

■旨いのは
男孫（おまご）の作る
シチュウです

■ふれあって
笑顔で地域
活性化

■３世代
祖母にも役割
与えられ

■「アーンして」
歯みがき上手な
パパのひざ

■農作業
母が運転
父が助手

■１日に
何回ハグする
介護です

■時々は
あなたの料理
食べたいな

■気をつけよう
気くばり大切
火事と家事

編集後記

編集委員長　川本　太問

男女共同参画川柳に４７０点応募していただきました。中学生の視点でとらえたほほえましいもの、少し皮肉をこめたもの、さまざまな川柳が出そろいました。応募してくださった方には、ただただ感謝するしだいです。紙面の都合上、全部の句を掲載するにはいたりませんでしたが、これにこりず、次の機会にもよろしくお願いします。

実は、今回の川柳には僕も２点、投稿したのだが、奇をてらいすぎたか、はたまた、ほんとに出来が悪すぎたのか各選考委員の目に留まることもなく、入賞はおろか、あえなく完全にボツ作品となってしまった。少しくらいは事務局が気を使ってもよさそうなものだが。

心の中では、「大賞を受賞してしまったらどうしよう。」などといらぬ心配をしていたのだが、取り越し苦労もいいところであった。

賞といえば、去年、某お笑い芸人が執筆した小説が受賞して話題となったことが思いだされる。無頼派と称された文豪を敬愛しているそうで、常日頃から文学作品に親しみ、感性を研ぎ澄ましていたことが受賞につながっているのかもしれない。

僕自身は、編集後記という文学作品を執筆しているにも関わらず受賞を逃してしまった。どうしよう。そうだ、「よしもと」に行こう。

発行/新見市　編集/新見市男女共同参画情報紙編集委員会